

複合的資源管理型漁業促進対策事業調査

ヒラメ（日本海）

（抄録）

小向 貴志

はじめに

第Ⅰ期対象魚種のヒラメの資源管理後の漁獲動向を把握する。

材料及び方法

（1） 漁獲統計調査

1960年～1999年のヒラメの年間漁獲量を、県統計を用いて市町村別に調べた。日本海沿岸8漁協（協元、十三、車力、赤石水産、大間越の5漁協を除く）の1993年1月～1999年12月におけるヒラメの漁獲量と金額を月別銘柄別に調べた。

（2） 稚魚分布密度調査

7/15、8/17、8/24、9/24に、ヒラメ着底稚魚を対象に桁網による曳網試験を行った。

結 果

（1） 漁獲統計調査

青森県全海域におけるヒラメ漁獲量は1990年以降増加し、1997年に1,320トとピークに達したが、1998年には1,240トに減少した。

日本海海域における1999年のヒラメ漁獲量は115トで前年比78%に減少した。

日本海海域における1999年の漁獲金額は2億3,300万円で前年比74%に大きく減少した。

漁協別漁獲量・金額

鰯ヶ沢・大戸瀬漁協が量・金額ともに多く、1999年は2漁協で全体の7割以上を占めた。

月別漁獲量・金額

4～7月と11～1月に漁獲のピークがみられた。金額も同様であった。

漁業種類別漁獲量・金額

量・金額とも定置網が大半を占め、99年には各々7割以上を占めていた。

銘柄別漁獲量・金額

銘柄「大」、「中」、「小」が大半を占め、量・金額共に7割以上を占めていた。鮮魚ヒラメの最も単価の高い銘柄「大」をみると、1993年以降年々安くなり、1999年は1993

年の 60%にまで落ち込んだ。活魚ヒラメの単価についても鮮魚ヒラメと同様に年々安くなっていた。

(2) 稚魚分布密度調査

4 回の曳網調査中、分布密度のピークは 8/17 であり、60.0/1000 m²（漁獲効率 1）であった。

水深が深い方に大型の個体が分布する傾向がみられ、成長と共に深場へ移動していることが推察された。

調査海域の出来島～車力地先の分布密度は南北で顕著な偏りはみられなかった。